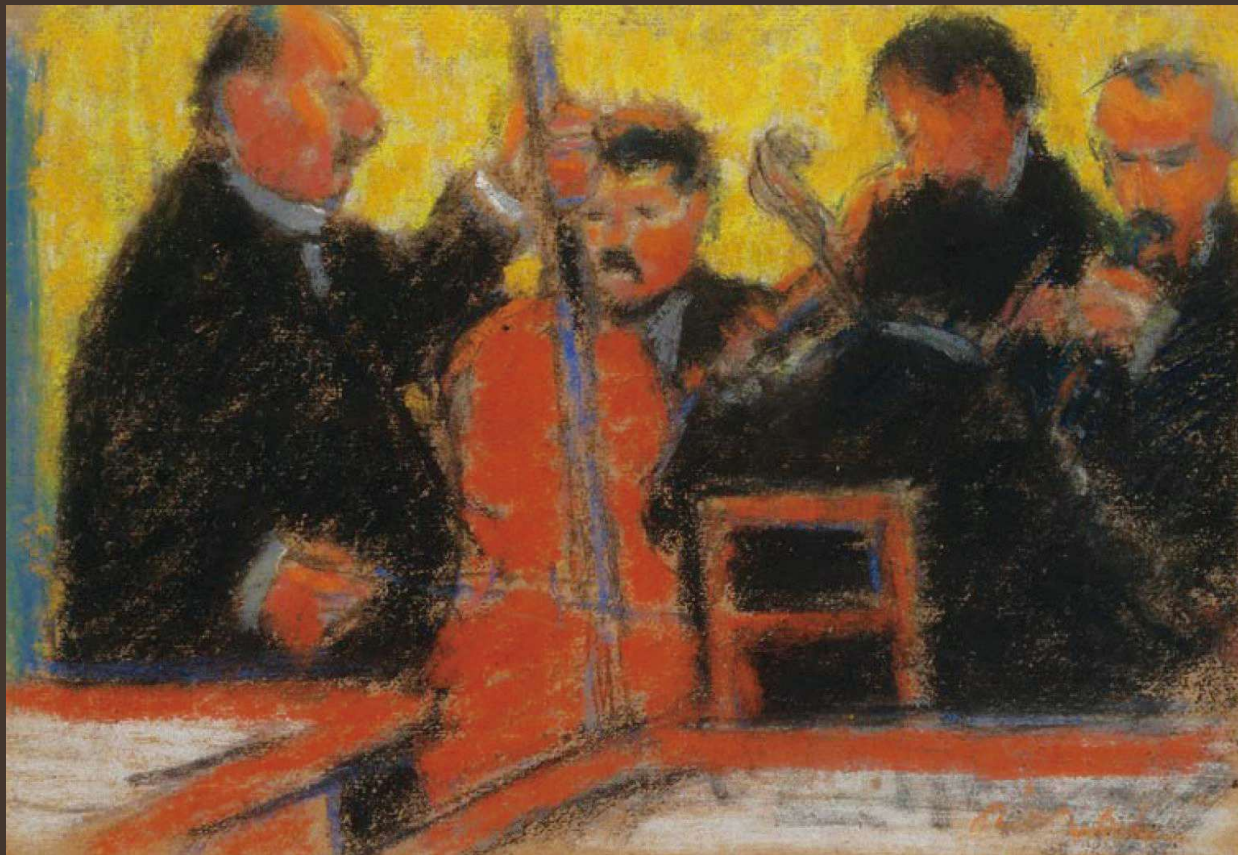


対話と発見のセッション

オデッセイ・シリーズ 2025-2026



作曲家たちと名作の生まれた“当時の世界”に目を向けると、音楽はますます面白くなる



ヨーゼフ・リップル＝ローナイ画「カポシュヴァールの音楽家たち」（1910年代）

オデッセイ・シリーズとは

知れば知るほど「なぜ？」がいろいろなところに潜んでいる西洋クラシック音楽。楽譜を読み込んだり、音楽書籍を読んだりしているだけでは見えてこない、名曲が生まれた社会背景や作曲家たちの日常感覚など「もう一歩先」を知るためのきっかけを、音楽家を交えてさまざまなゲストと共に探っていくシリーズです。

第1回 エネスコを生み育てた世界



クラシック音楽の傑作が数多く生まれた19～20世紀初頭の中欧・東欧。この時代、そこにどのような「国」が存在し、どんな社会で音楽が演奏されていたのでしょうか。ウィーン、ベルリン、パリなど西欧の大都市との関係を辿りながら、ディスカバリー・シリーズ第1回目の主役、ジョルジュ・エネスコの知られざる姿に迫ります。

作曲家であるだけでなく、ヴァイオリンとピアノの名手、そして教育者でもあったエネスコ。メニューイン、グリュミオー、リパティ、ギトリスといった彼の教え子たちは、後に欧米の舞台で名演奏家として活躍しました。多彩な視点をもつ4名のスピーカーとの対話を通して、エネスコという偉大な音楽家の魅力と一緒に探求してみませんか。

2025.4.18 Fri 19:00開演 (18:45 開場)

会場：株式会社白寿生科学研究所 本社ビル2階大研修室
(Hakuju Hall同建物内)

(代々木公園駅より徒歩5分・代々木八幡駅より徒歩5分)

料金：一般 3,000円 学生 1,000円 (自由席)

出演：石上 真由子、白沢 達生、小室 敬幸、大山 平一郎



石上 真由子

ヴァイオリニスト/
Music Dialogueアーティスト
日本音楽コンクール等、内外で受賞多数。国内外でオーケストラとの共演も重ね、題名のない音楽会や NHK クラシック音楽館等メディア出演も多数。アンサンブル九条山メンバー。Ensemble Amoibe 主宰。京都市芸術新人賞、音楽クリティック・クラブ賞、大阪文化祭賞、青山音楽賞、藤堂音楽賞、京都府文化賞受賞。日本コロムビアより CD 発売中。
www.mayukoishigami.com

主催：一般社団法人 Music Dialogue

協力：Hakuju Hall / 株式会社 白寿生科学研究所

※プログラムや出演者は都合により変更になる場合があります。

対話と発見のセッション オデッセイ・シリーズ 2025-2026

作曲家たちと名作の生まれた“当時の世界”に目を向けると、音楽はますます面白くなる

オデッセイ・シリーズ今後のスケジュール



■第2回（2025年8月下旬開催予定）作曲家たちとヨーロッパの民俗伝統（仮）
ドヴォルザークやブラームスのような作曲家たちも、諸民族の坩堝となっていたオーストリア＝ハンガリー帝国の世情やドイツ、フランス、英国などの大国の情勢と無縁ではありませんでした。彼らの芸術性と社会の関わりを、他の作曲家たちにも言及しながら読み解いてゆきます。

■第3回（2026年1～2月開催予定）北欧、英国、クラシック（仮）
何かとドイツ語・フランス語・イタリア語で多くのことが回ってゆく近代クラシック音楽ですが、北欧諸国や英国もそこに大きな影響を及ぼしていました。それぞれの国々の音楽シーンにも目を向けつつ、ヨーロッパ全体でどのように音楽史が紡がれてきたかを広い視野で見えてゆきます。
※日時やゲストなど、決まり次第第HPでお知らせします



白沢 達生

音楽ライター、翻訳者
西洋美術史専攻・雑誌編集・輸入
商社勤務を経て独立。仏・伊・
英・独・蘭・西語他翻訳や執筆が
活動の中心。雑誌CD選盤、美術
館音声ガイドの選曲監修や企画
展ショップの音盤セレクションも
手がけてきた。演奏会、歴史系イ
ベントやラジオなど話し手や司会
を務める機会も多い。仏語圏レ
ベルCDの解説翻訳・執筆多数。



小室 敬幸

作曲、音楽ライター
東京音楽大学で作曲を学んだ後、
同大学院では音楽学を専攻。修了
後は大学の助手と非常勤講師を
経て、現在は音楽ライター。クラ
シック音楽、現代音楽、ジャズ、
映画音楽を中心に演奏会やCDの
曲目解説、雑誌やWEBメディア
にインタビュー記事等を執筆。共著
に「聴かずさらいのための吹奏楽
入門」「ピアノへの旅」。



大山 平一郎

ヴァイオリスト/
Music Dialogue芸術監督
英国のギルドホール音楽学校を卒
業。1972年マルボロ音楽祭に
参加。1973年カリフォルニア大
学助教授に就任。1979年にロサ
ンゼルス・フィルハーモニー管弦
楽団の首席ヴァイオラ奏者に、
1987年に副指揮者に任命され
る。その後ラホイヤサマーフェ
スト、サンタフェ室内楽音楽祭芸術
監督、九州交響楽団、大阪交響楽
団の指揮者等を歴任。

ディスカバリー・シリーズとは



気鋭の若手演奏家と経験豊富な演奏家による音楽づくりの起点となる現場を公開する「字幕解説付きリハーサル」と、その後数日間の集中したリハーサルを経て完成形となる「本公演」の2部構成（どちらか片方だけの鑑賞も可能）になっています。それぞれの終盤には、聴衆の皆さまと演奏者との「対話の時間」があり、和やかで気取らない空気感のなかで、さらに演奏の余韻を楽しんでいただけます。

■2025年6月7日(土) 19:00開演

エネスコ ヴィオラとピアノのための演奏会用小品
エネスコ 弦楽八重奏曲 八長調 作品7

■2025年9月7日(日) 17:00開演

エネスコ ピアノとヴァイオリンのためのソナタ 第3番 作品25 ～ルーマニア民俗風に
ドホナーニ ピアノ五重奏曲 第1番 八短調 作品1

■2025年12月14日(日) 17:00開演

ブラームス 弦楽六重奏曲 第1番 変ロ長調 作品18
ドヴォルザーク 弦楽六重奏曲 イ長調 作品48

■2026年3月1日(日) 15:00開演

コダーイ ヴァイオリンとチェロのための二重奏曲 作品7
ボロディン 弦楽四重奏曲 第2番 二長調
グリーグ ホルベアの時代から(ホルベルク組曲) 作品40
ブリテン シンプル・シンフォニー 作品4
エルガー 序奏とアレグロ 作品47



Music Dialogue とは

Music Dialogueは2014年2月に、指揮者・ヴァイオリスト大山平一郎を芸術監督として設立し、室内楽という「対話」を通して世界で活躍できる若手演奏家を育てていくことや、室内楽の楽しみを多くの人々に体験していただくことを目的として、様々な活動を展開してまいりました。

室内楽を通して、若手演奏家が経験豊富な演奏家と一緒に真の音楽づくりを学ぶことで、アンサンブルの本質を理解できる優れた演奏家になるためのお手伝いをしていきたいと私たちは考えています。

詳しくは、ホームページをご覧ください。 <https://music-dialogue.org/>

